

# 事例報告 テーマ「家庭教育支援を考える」

I 父親たちの学び合い  
～「父親ネットワーク北海道」の事例から

II 家庭教育を若年層の親はどこで学ぶことができるのか？  
～2歳児衰弱死事件(札幌)から

吉岡亜希子(父親ネットワーク北海道、北海道文教大学)

令和2年度第2回北海道社会教育委員の会議兼第15期北海道生涯学習審議会 オンライン開催 2021年1月13日(水)10:00～12:00

## I 父親たちの学び合い

～「父親ネットワーク北海道」の事例から

- 「父親ネットワーク北海道」～2011年設立
- 道内各地で子育てに関わるグループ活動をしているお父さんたちを中心にお母さんや子育て支援者、学生らが集う
- 目的は情報交換、つながりづくり、励まし合い
- 「学習」活動を大切にしている。



# 全体交流会

(年に1回開催)

- 2011年 札幌 設立集会:全道各地の父親たちの会の実践交流
- 2012年 稚内 「いじめに対して親としての課題・学校との連携」意見交換
- 2013年 札幌 札幌の中学校のお父さんたちが中心となって、地域の会館で取り組む中学生への学習支援活動
- 2014年 苫小牧 教育委員長の講演、千歳の町内会のお父さんたちが取り組む通学合宿ほか
- 2015年 札幌 商店街と学校を結ぶ取り組み
- 2016年 札幌 北星余市高校PTAの取り組み
- 2017年 新得 帯広のおやじの会ネットワーク活動
- 2018年 夕張 夕張高校「魅力化プロジェクト」
- 2019年 稚内 不登校経験のある若者と保護者の語り、高校生との交流会

「共生社会の実現に寄与する  
社会教育・生涯学習」を  
お父さんたちの活動から  
考えてみると...

- まだまだ子育ての中心は“お母さん”という意識が根強い中、お父さんたちは、なぜ地域の子育てに対して当事者意識を持って取り組んでいるのだろうか？
  - 父親ネットワーク北海道～会長の歩み
- 【4つの段階】
  - 第1段階: **子育てを意識化する契機**～知人によるPTA活動
  - 第2段階: **自己意識化の契機**(子育てを我がこととする契機)  
～PTAの親交流、教師との出会い
  - 第3段階: **協同の子育ての意義を理解する契機**  
～例)おやじの会の古紙回収で地域の子育て課題を知り、  
かつ、協同活動の喜びを知る
  - 第4段階: **社会教育実践の主体へ**  
～社会教育委員、「父親ネット」の設立、全国の研究大会での  
発表、大学での講演など

## シングルファザー・ ハンドブック

- 「父親ネットワーク北海道」の学習交流会を契機に→2018年、父子家庭当事者の父親3名と共に「シングルファザー・ハンドブック」を作成した。ここでも当事者の父親たちが教育主体となりうる展開があった。

※『シングルファザー・ハンドブック』は、

「父親ネットワーク北海道」のホームページに全文を掲載



## Ⅱ 家庭教育を若年層の親はどこで学ぶことができるのか？

～2歳児衰弱死事件(札幌)から

- 社会的に孤立しがちな人の学び～若年層のシングルマザー
- 2019年6月、札幌市中央区で2歳児が亡くなる。虐待が疑われ、大きく報道された。

- 2020年9月、母親のパートナーである男性の裁判を傍聴
  - 2020年11月、母親の裁判
- 有志でこの事件を考える学習会を開く

### 【課題】

- ①若年層の母親が親となるための学びの機会は乏しい
  - ・基礎的な親としての知識・文化継承の困難
  - ・「助けて、力を貸して！」と言える力量形成の機会がない
- ②虐待に対応する関係者の学ぶ場が不足



- “虐待に対応する児相や警察の役割”と“予防となる社会教育の役割”を同程度の位置づけに